



アメリカのハートランドと称される中西部ミシガン州デトロイトに30年近く家族ぐるみで付き合っている友人がいる。金融機関に勤める典型的な中堅サラリーマン、本音で話しが出来る数少ない仲間の彼は根っからの共和党支持者である。

多民族・移民国家故に差別的な表現を避けて建前をベースに日常生活を過ごす多くの市民の中で唯一、折に触れ、本音の気持ちを聞いてきた。

長丁場の大統領選の最中、彼ら夫妻が北方領土とサハリンを見たいと2016年7月来訪、我々夫婦が10日間程北海道の道案内を共に楽しんだ。低好感度対決、中傷に終始する二人の候補者、トランプ氏の憎悪に満ちた言葉のやり取りなどさすがの彼もアメリカ市民として「恥ずかしい」と漏らしていた。

共和党主流派から大統領として不適格と疎外され、主要メディア（ニューヨーク・タイムスなどリベラル系の新聞・テレビなど）から連日攻撃され、世論調査では絶対負けると予想されていた11月初め、彼にそれでもトランプ候補に投票するのかとメールした。彼からは、ドイツ、英国に続き、間もなく我々も女性のトップを頂くことになるだろうと悲観的な返事だった。

選挙結果は大方の予想に反して排外主義と差別をあからさまに口外したドナルド・トランプ氏が勝利した。しかし正直なところ、8年前“変化”をスローガンに初めての黒人大統領が誕生した時ほどの興奮と感激はなかった。

勝因については色々後付けがなされているが、選挙結果後のメールでは、民主党・クリン

トン候補達は本当の事象がまだ良くわかっていないのではないかと、また敗因は大統領が黒人から女性に引き継がれ、リベラル政権が3期続くことへの保守的な白人の危機意識だったと述べている。国内の製造業が衰退し職を失ったことへの多数の白人労働者階級の不満が爆発したからと総括する考えにも納得がいく。選挙期間中の9月中旬トランプ氏はGM創業の地ミシガン州フリント市の荒廃した街（全米で最も危険な街の一つで貧困率4割超）の教会を訪れ、また劣勢が伝えられていた選挙戦最終日最後に演説を行ったのもミシガン州グラント・ラピッズ市である。

前任者と反対の個性を持った大統領を選ぶ傾向がある米国で、新大統領の国内外における政策がどのように進むのかまだよくわからないが、一つだけアメリカ社会の凄さに驚いたことを述べたい。昨年7月彼からお土産としてMade in Detroit製の高級腕時計を貰った。オバマ大統領も英国首相に贈呈したことがある時計で、2011年デトロイトの歴史的建物の中に時計工場と自転車工場を設立、生産工程の全てをここでやっている。

“Shinola”というブランドで会社は順調に伸びているようだ。ゴーストタウンだった街でベンチャービジネスを行う若者達、高すぎて住めなくなった街からアーティスト達がデトロイトに引っ越してきているという。未来を積極的に切り開く若者達がいる限り、アメリカ社会の健全な発展と進化は続くことと確信している。

えぐち たてゆき 伊藤忠商事（株）を経て、2001年設立の（有）EMIコンサルティング代表取締役。

## トランプ現象の 行方